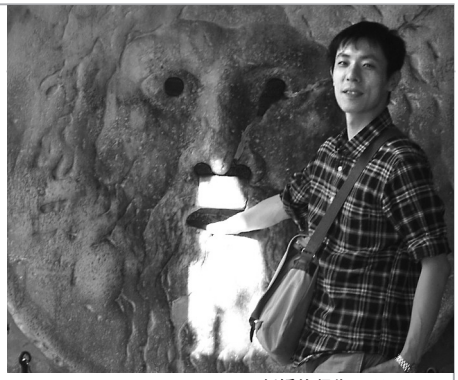
コーヒーブレイク

「婚活」の場は国選にも?

会員　海賀 裕史（62 期）



新婚旅行先のイタリアで

1　婚活と国選

聞き始めは，いまいちピンとこなかった「婚活」という言葉も，いまやすっかり世間に定着してしまった感がある。

婚活の場も，最近では，料理教室，山登り，釣り，etc…など，多岐にわたるようである。

そういえば，婚活が巷で取り上げられ始めたのは2008年頃らしい。ちょうどその頃，20代後半だった私は，もしかすると婚活世代といえるのかもしれない。

そんな私も，去る2010年10月に入籍した。

ところで，私は，妻とは，「とある場」で出会ったのだが，私の婚活（？）の場は，今から思うと一風変わっていた。少しその話をさせていただきたい。

2　出会いは弁護士会館

話はさかのぼる。2010年の３月であった。国選のいわゆる研修枠で，初の国選受任のため，私は弁護士会館の３階へ赴いた。

私が着くと，部屋には，私と同じく初国選であろう弁護士が，私を含め４人いた。

そのうち１人とは面識があった。修習のクラスメイトである。

旧友との再会の流れで，少し場の緊張感がほぐれたようで，その場にいた４人での会話が始まった。そうして，４人の名刺交換が行われた。

４人の内の１人に，企業内弁護士の方がいた。私は，以前から企業内弁護士の仕事に興味があり，弁護士会館からの帰り道は，その方と話しながら帰る流れになった。帰り道，話してみると，その方と私が，同郷だということが判明した。

3　メールのやりとりなど

事務所に帰り，その方にひとまず，メールで挨拶をと思ったところ，意外にも先方からのメールの方が先に到着した。私と同じく，ずっと関西で過ごしてきて，弁護士になって初めて東京に来たのだという。

メールをやりとりする中で，郷里でよく知られたお好み焼き屋さんが池袋にあったので，よかったら，一度そこで食事でも，という話になった。

そして，これからも仕事の話をし，また，お互い初めて住む東京なので，一緒に東京を探索しようという話をし，それから頻繁に会うようになった。

これが妻との馴れ初めである。

4　そして結婚へ

こんな流れで，トントン拍子に結婚までこぎ着けたことになる。

現在，婚活中の皆様のご参考にしていただければ幸いであると言いたいところだが，自分でも，偶然に偶然が重なっていたことに改めて驚いている。

5　教訓めいたもの

なお，私は別に，国選は出会いの場だとか，国選で名刺交換をすべきだとか，合コンよりも国選に行くべきだ（！）などと喧伝するつもりはない。ただ，「いつ何時，どこで，どんな出会いがあるかはわからない」というのは，本件から私が得た教訓である。

6　後日談

もちろん，事件そっちのけだったわけではない。

このとき受けた事件は，様々な人の温かさに触れることができ，誠心誠意の仕事をすることがいかに大切かを教えてくれた。初心を忘れないようにしたい。

ところで，事件が終了した際，関係者の方に感謝と共にかけていただいた言葉がある。

「先生も早く良い人をみつけて幸せになって下さいね。」と。

その後，程なくして結婚を決めた。これからも出会いを大切にしたい。